



SSI・特別講義・夏休み中の活動報告①

○ SSI(Student Science Instructor) 活動

6月17日(土)に、大野小学校の児童を海南高校に迎え、SSI 活動を行いました。

雲を作る実験や人工いくららの作成、手作りリニア、燃料電池、葉脈標本などグループごとに活動し、最後には液体窒素を使った演示実験を行いました。小学生は、どの実験も熱心に説明を聞き実験に取り組み、実験での変化や現象に驚いた様子で活動していました。



＜SSI 活動 手作りリニア＞

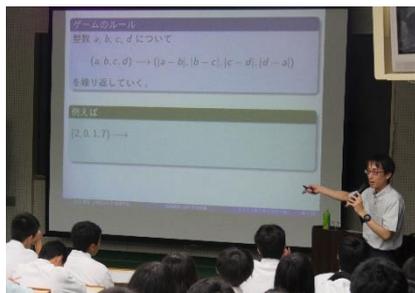
また、今年から始まったACS活動では、海南の地元の企業から話を聞くことで地域について学んでいます。高校生が学んだ内容や地域の魅力を小中学生にも伝えようと今回SSI活動での実験の後、OECDイノベーション教育ネットワークに参加しているグループにより、地域を伝える活動も行いました。クイズを交えながら、楽しく小学生に地域の魅力を伝えることができました。



＜海南の魅力を伝える＞

○ 特別講義「数学者って何者ですか？」

7月12日に特別講義を行いました。和歌山大学教育学部北山秀隆准教授より数学の世界や数学者について、2A・E(理系)、1Aの生徒に講演して頂きました。講演では、「コラッツ予想」や「ゴールドバッハ予想」など、これら数学者が抱える未解決問題を実際に解きながら、数学者が予想した問題を数学者が証明することの難しさと数学の魅力を教えて頂きました。



＜特別講義の様子＞

数学っておもしろいという言葉が参加した生徒の感想に多く見られました。

夏休み活動報告①

○ 近畿大学原子力研究所

7月26日、27日の2日間、近畿大学原子力研究所で1年教養理学科が研修を行ってきました。

近畿大学では、はじめに原子力施設に入るための保安教育を受け、その後、火力発電と原子力発電の違いや、どのような仕組みで原子炉内での反応を調節しているかといった原子力の仕組みについての講義を受けました。その後、近大原子力施設の見学をしました。本年度は原子炉が再稼働され、運転されており貴重な体験ができました。

見学の後、「中性子ラジオグラフィーとX線透過写真」および、「放射線・放射能の測定」の実習を行い、普段はニュースなどで言葉として聞くだけの「放射線」について、どういった存在なのか理解を深め、原子力や放射線についての正確な知識を学ぶことができました。

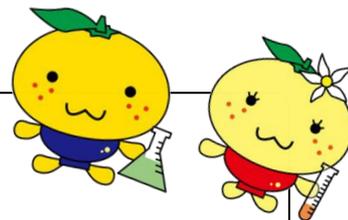


＜近大原子炉運転装置＞



＜放射線・放射能の測定＞

・夏休み中のその他のSSHの活動については、次号で報告します。



今後の予定

- 9月15日 海高祭
- 16日 ポスターセッション
(2年SITP 選択生徒)
サイエンスカフェ
(科学部)
- 12月21日 和歌山県高等学校生徒科学研究発表会
(1・2年教養理学科・
2年理系)